

福山



藤井ひとみさん

「〇〇家の墓」というような先祖墓の歴史はまだ浅く30年くらいです。それ以前は、夫婦墓や個人墓がほとんどでした。代々続いている家だと、墓石が30基以上ある所もあります。

現在は、墓地の面積にも限りがあるなどの理由から、先祖墓や五輪塔を



お墓の持つ意味

建てて永代に供養していく流れができています。

先祖墓を建てたとき、お墓の隣に霊標を設置することがあります。これは、故人の戒名や統柄を彫り込んでいくものです。お墓参りに行ったとき、刻まれている故人の名前を見て、子供や孫に自分たちとどんな関係の人だったのか、故人はどんな人だったのか、趣味や人柄はどうだったのかといったことを話してあげることがあります。そして、会ったことのないご先祖に親近感を持つことは、故人にとっても供養になるのではないのでしょうか。

この記事の問い合わせ先
☎0120(594)548
墓石・墓苑の彩聖(新漕町6〜15〜22)

※このコラムは、毎月1回墓石や墓づくりについて彩聖・お墓ディレクター藤井ひとみさんに伺います。